

酒類・食品 & News 解説

週刊

令和7年10月10日(金曜日) 第3465号

(昭和42年7月10日第3種郵便物認可)

毎週金曜日 発行 編集発行人 石母田 健

購読料 6ヵ月 15,730円(税込み)

振替番号 東京4-71739

発行所 株式会社 日刊経済通信社

本社/東京都中央区日本橋小伝馬町10番11号 日本橋府川ビル

☎03(5847)6611(代) FAX 03(5847)6600

名古屋支局☎052(253)6924 大阪支局☎06(6353)1791

http://www.nikkankeizai.co.jp/

10月1日は「日本酒の日」

中央会、国内外7カ所で「斉乾杯」

日本酒造組合中央会は、今年も10月1日の「日本酒の日」にあわせ、自由に参加できる「日本酒で乾杯! 2025」オンラインイベントを開催した。

1878年(昭和53年)に10月1日を「日本酒の日」と定め、国内外を問わず多くに日本酒に触れてもらい、その魅力や楽しみ方、文化的価値を知ってもらうきっかけとなるような、広報やイベントを企画してきた。

10月1日が「日本酒の日」と制定されたのは2つの理由がある。

ひとつは「10月は新米の収穫が始まり、全国各地の蔵が日本酒造りを始める季節だから」。

もうひとつは、「各月を十二支で表すと10月は『酉』であり、『酉』の漢字表記は、もともと酒壺や酒そのものを意味するから」。

今年はおトクショーや揮毫ライブパフォーマンスに加え、日本時間19時ジャストには、熱気あふれる国内外7カ所(青森県、愛媛県、高知県、マレーシア、シンガポール、台湾、香港)のイベント会場を繋ぎ世界一斉乾杯を行った(写真左上)。



マレーシアから出演した四方敬之駐マレーシア特命全権大使は、「マレーシアでは現在日本酒の人氣が高まっており、輸入額でも世界13位となっており、現在も人氣が引き続き伸びている」とコメント。

また、シンガポール、香港、台湾などからも多くの日本酒ファンの参加があり、国籍を問わず日本酒を楽しんでいる様子が伝わった。

てきた。

「トークイベント&書道家によるライブパフォーマンス」

ライブ配信では、書道家であり日本酒ラベルの制作も手がける白井鳳九(うすいほうきゅう)さんと、きき酒師で2018年ミス日本酒準グランプリに輝いた児玉アメリカ彩さんによる乾杯トークショーも行われた。

日本酒と書道に通じる「間(ま)」や「余韻」といった感性の共通点に触れながら、平安時代の雅な遊び——小川に流した酒杯が手元に届くまでの間に詩をしたための(曲水の宴)についての話題も登場。



主な内容

「日本酒の日」イベント
12面

SVB創業10周年イベント
12面

「京都」が清酒地理(G)に
14面

「サッポロ」が「お酒」に刷新
7面

アサヒ飲料「十六茶」
15面

「コーヒーの日」イベント
5面

新生オハヨー牛乳
13面

アクリル「ST HOP」に出店
3面

「開缶研究会」
11面

原料商品情報
89面

酒と書、それぞれの文化がどのように人々の営みに根ざし、現代へと受け継がれてきたのかを語る場面では、視聴者からも多くの反響が寄せられた。

共通の日本文化の精神性を紐解き、視聴者にわかりやすく日本酒の魅力も解説された。

また、白井氏による揮毫パフォーマンスでは、「日本酒で乾杯」の文字がダイナミックに書き上げられ、力強い筆致と音楽が一体となった演出によって、配信の場が一瞬にして静謐かつ熱気を帯びた空間へと変貌。書と日本酒の融合が織りなす新たな体験に、多くが魅了された。

同氏は「日本全国や世界も一緒に繋がって、日本酒の日がみんなに広がり、更に調和していくことをイメージした」とコメント。

視聴者からは「息をのむパフォーマンス」「迫力が凄い」などの声もリアルタイムで寄せられた。



「全国各地の酒販店等でもキャンペーンや試飲イベントを開催」

今年も百貨店や大手酒販店、大手ECサイトなどでもキャンペーンが行われ、全国から約600店舗が参加し、日本酒の日を盛り上げた。

一部の店舗では、オンラインで中継を見ながら、19時に日本酒で乾杯する取り組みが行われたほか、店頭に蔵元を招待したトークイベントも行われるなど、多く売り場でも「日本酒の日」を祝った(※同右下は東京(2面に続く))

KIRIN'S PRIME BREW

おいしいとこだけ 搾ってます。

一番搾り

キリンビール株式会社

よろこびが広がる世界へ

KIRIN

ストップ! 20歳未満飲酒・飲酒運転。お酒は楽しく適量で。妊娠中・授乳期の飲酒はやめましょう。のんだあとにはリサイクル。

キリンビール株式会社